



アスリート先生 学校派遣事業

# Challengers Academy 実施レポート

港区立小中一貫教育校 赤坂学園  
5年生

2023年12月20日(水)

# チャレンジャーズアカデミー 実施にあたって

IMD(国際経営開発研究所)が発表した「世界競争力年鑑2022」によると、ビジネス分野における近年の日本の『世界競争力』は大幅に落ちており、今後、日本ではグローバル社会で活躍できる人材の育成が急務であるといえます。

そこで、海外を経験したアスリートが、日本の未来を担う子どもたちへ自身の経験や想いを子どもたちに伝えることで、夢やチャレンジ精神をもつことの大切さを知ってもらい、国際社会での活躍を意識してもらえるよう、アスリート先生による学校授業プログラム「チャレンジャーズアカデミー」を立ち上げました。

いくつもの困難を乗り越え、自身の夢や目標に向かい、世界を舞台に挑戦してきたアスリートたち「チャレンジャーズ」のこぼれ話や経験は、子どもたちに気づきをもたらし、勇気を与える力があると信じています。

同時に、学校教諭の指導力向上や働き方改革の一助となること、また、アスリート達の社会貢献の場となり、セカンドキャリア支援となる仕組みを生み出すことを目指します。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。

「チャレンジャーズアカデミー」での“触れ合いによる学び”が、今後生徒の皆さんが国際社会に出てグローバルな歩みを進めていく中で活かせる資質や能力を育むとともに、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフを送り健康的な人生を送るきっかけとなることを期待しています。

# 1. 実施概要（2023年度）

【事業名】 アスリート先生 学校派遣事業

【運営委託】 一般社団法人FELICEスポーツクラブ

【主催】 公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団

【日程】 2023年12月20日(水)

【実施校】 東京都港区立小中一貫教育校 赤坂学園 (東京都港区赤坂9-2-3)

【実施クラス】 5年1組:23名、5年2組:24名、5年3組:27名、 合計:74名 (3クラス)

【目的】 海外を経験したことのある元アスリート＝「チャレンジャー先生」が教師役となり運動と講義の授業を実施し、子どもたちへアスリート自身が海外に出たきっかけや、どのように語学やコミュニケーション能力を身に付けたのか、また海外で遭遇した困難をどう乗り越えたかなど、自身の経験を伝えることで、子どもたちが国際感覚を養い、将来世界を舞台に活躍することを意識するきっかけをつくる

【チャレンジャー先生】 岩崎恭子先生

【子どもたちに身に付けてほしい要素】

- 語学力、コミュニケーション能力
- 自己主張力、自立心
- グローバルな視点・多様性のある社会の創造など、新しい時代に求められる資質や能力
- スポーツを好きになり、生涯にわたり健康的で豊かなスポーツライフを送るようになること

【実施方法】 運動と講義の2コマ1セットの授業を、クラス単位で実施

- 運動の時間 チャレンジャー先生自身の競技・トレーニングを実践し、その競技に親しむとともに、スポーツの楽しさを知ってもらう
- 講義の時間 目標を達成させるためにしたこと、海外での困難にどう乗り越えたかなど、先生自身の経験や想いを伝え、生徒に国際社会で活動することについて考えてもらう

## 2. 授業構成（講義の時間） ※45分

### ① 自己紹介・自身の国際経験の話（30分）

**自己紹介** ※事前に紹介VTRを視聴してもらっています。

- ・選手時代の写真やVTR映像を用いて自己紹介
- ・簡単なプロフィールを配布または黒板に掲示
- ・現役時代にプレーした国、遠征で滞在した国の情報



#### 国際経験の話

以下のテーマのうち**最低2つ**を入れて話してください。

- ◆ 海外に出たきっかけ、現地でどのようにコミュニケーションをとれるようになったのか
- ◆ 海外で遭遇した困難とは？それをどう乗り越えたか？
- ◆ 日本と海外の違い、海外でびっくりしたこと
- ◆ 海外を経験してよかったこと、どのような強みがあったか
- ◆ 海外に出て感じた日本の良いところ、もっとこうの方が良いと思うところ

### ② グループワーク・発表（10分）

①で先生の話聞いたうえで、子どもたちが感じたことを話し合い、国際社会に出ること、語学の習得、将来の目標など、自身のことにあてはめ考え気づきを与えることを目的とします。



**グループに分かれ、それぞれ感じたことを出し合う(5分)**  
**各グループの代表者が話し合ったことをまとめ発表(5分)**

**今回は5年生全員で講義を聞くため、質疑応答や、数人に感想を発表してもらおう。**

### ④ 授業のまとめ（10分）

各グループの発表を受け、チャレンジャー先生がこの授業で一番伝えたかったことを伝える生徒へのメッセージ、アドバイスなど

### ⑤ 挨拶・着替え ⇒プールへ（休み時間10分間）

- 5年1組は、次の授業場所であるプールへ移動を促す
- 5年2組は3校目
- 5年3組は4校目

## 3. 授業構成（運動の時間） ※45分

### ①自己紹介～授業の目的を確認（5分）

- ・自己紹介(名前、競技歴、今の活動など)
- ・今日の授業の目的を伝える



### ②準備運動（10分）

- ・ウォーミングアップ、ストレッチ、体操など実施  
※自身の競技の特性を活かしたウォーミングアップを行う  
※怪我予防のため、動きの効能・目的を伝える



### ③主運動（25分）

- ・目標に向かって仲間と協力し合い努力すること、その達成感とスポーツの楽しさを感じてもらえるよう、効果的に声かけをする  
※目標設定と作戦会議の時間を設ける



### ④まとめ（5分）

- ・子どもたちが良く考えたこと、努力をした点を評価する
- ・次の授業は教室のため、移動を促す



### ⑤挨拶・着替え（休み時間10分間）

#### ※授業の最初や最後

- アスリート先生による競技のパフォーマンスを披露  
⇒子どもたちに、世界で戦ったアスリートの凄さを知ってもらう



# 4.授業レポート① 5年生全員 講義

【日程】2023年12月20日(水) 1時間目

【チャレンジャー先生】岩崎 恭子 先生(バルセロナ五輪200m平泳ぎ金メダル)

## チャレンジャー先生の経歴・海外での挑戦の話



1994年のバルセロナオリンピックの競泳「女子200m平泳ぎ」で、14歳にして金メダルを獲得。その時のメダルを見せていただき、生徒たちは初めて目にする金メダルに興奮していました。試合後のインタビューで語った言葉が流行語にもなり、注目を集めるようになりプレッシャーを感じるようになった時の苦労や、次のアトランタ五輪ではスランプに陥り結果が残せなかったことなど、10代で良いことも、悪いことも、様々な経験をされた話をしてくれました。



アトランタ五輪後、世間からの厳しい目やモチベーションの低下などにより競技生活から引退。日本では注目を浴びる日々でネガティブな思考に陥っていたのが、アメリカに渡り一般人として過ごすことができたことや、日本とは違うアメリカの指導者のコーチング(褒めて良いところを伸ばすアプローチ)に触れ、ポジティブなマインドを取り戻したそうです。

## 質疑応答・質疑応答



最後に、好き食べ物から、小さいころの夢、水泳をやって楽しかったこと、水泳を始めたきっかけとなったお姉さんとの関係性など、生徒からの質問に答えられました。現在は、水難事故防止につながる「着衣泳」を教える活動に注力しており、将来の目標も語っていただきました。

# 4.授業レポート② 運動(5年生3クラス)



【日 程】 2023年12月20日(水) 2時間目～4時間目

【チャレンジャー先生】 岩崎 恭子 先生(バルセロナ五輪200m平泳ぎ金メダル)

## 自己紹介・準備運動



救命胴衣を着用してプールサイドに集合し、「着衣泳」を学ぶ目的を説明します。服を着たまま水に落ちても、落ち着いて浮き方や泳ぎ方を身に付けておくことで、水難事故を防ぐことができます。

準備運動として、プールサイドに座ってのバタ足、水中ウォーキングを行いカラダを水に慣らしました。



服を着たままでも、力を抜けば浮くことができることを体感します。着衣や靴にも浮力はあるので脱がずに利用します。仰向けのまま大の字になり、身体の力を抜いて顔を水面から出し呼吸を確保し、救助を待ちます。



身近なものでも浮力の足しになることを学びます。クーラーボックス、バケツ、スニーカー、ペットボトル、ビニール袋に空気を入れたものなど、少しでも空気を確保するものであればお腹の上で持つことにより浮くの役に立ちます。生徒たちはそれぞれをお腹に抱え、浮きながら進む練習も行いました。各クラスの水泳の授業の最後には、生徒たちに金メダルを直に触らせていただきました。泳ぎ方、浮き方さえ身に付ければ、水難事故は対応できることを、生徒体は身をもって経験することができました。